

日本犯罪社会学会 第二回公開シンポジウム

家庭、学校、コミュニティにおける『環境と防犯』—あなたとあなたの家族を守るために—

社会が変わると犯罪も変わる。そして予防や対処も変わる。

めまぐるしく変化する現代社会で、あなたを、そしてあなたの家族を守るためにできることは何だろうか。

日本犯罪社会学会は、その問いに答えるため、最先端の四名の学者を招聘しました。

- ・ 主催 日本犯罪社会学会
 - ・ 共催 大阪商業大学、大阪樟蔭女子大学
 - ・ 後援 大阪府、大阪府教育委員会、大阪市、大阪府教育委員会、東大阪市、東大阪市教育委員会
 - ・ 開催日時 2005年10月21日（金） 開場：午後1時 開演：午後2時
 - ・ 開催場所 大阪樟蔭女子大学 401ホール（近鉄奈良線河内小阪駅下車徒歩3分）
- 入場無料 [2005年度文部科学省科学研究費補助金（研究成果公開促進費）補助事業]

パネリスト

小宮 信夫（立正大学文学部社会学科助教授）

子どもたちの安全については、警察官が学校に向いて護身術を指導したり、自治体が防犯ブザーを配布したりしてきた。しかし、それらは、犯罪者に近づかれたときの対処法であり、被害防止の最後の手段である。護身術にしろ防犯ブザーにしろ、使わないで済むのなら、それに超したことはない。とすれば、子どもたちには、それらを使わないで済むような状況に自分を置く方法も教えるべきではないだろうか。それが被害防止教育であり、まずは犯罪が起こりやすい場所には行かないこと、やむを得ず行く場合にはすきを見せず、犯罪者に犯罪の機会を与えないことを教え込むことである。このような意識と能力を高めるのに有効な手法が、地域安全マップ（犯罪が起こりやすい場所を表示した地図）の作製である。

横矢 真理（NPO 法人子どもの危険回避研究所所長）

東京都福祉のまちづくり推進協議会委員、日本犯罪社会学会、日本犯罪心理学会、警察政策学会所属。日本大学芸術学部卒業後、(株)リクルートに入社。結婚退職後、二児の母としての実感をもって「親子で生きる力を養う」ためのサイトを主催・運営し、子どもに関わる事故・犯罪暴力・健康・環境などの情報を提供。今回は、その立場を生かした被害防止教育の実践について、現場報告をする。

伊藤 康一郎（大阪商業大学総合経営学部専任講師）

日本の安全神話の崩壊が喧伝され、犯罪への不安感が高まる現在、市民の間には、自分や家族、居住するコミュニティまでの広がりをもって、自己の安全への要求が強まっている。そうした市民の安全への要求に対応するという点で、先行する英米においては、犯罪の予防のため、ネットワークングを中心とした「人」的な手段と、建物や街の環境の設計を中心とした「物」的な手段を両輪に活動が展開されている。本報告では、その概要を紹介するとともに、日本でそうした活動を実施する場合に生じうる問題点についても検討してみたい。

原田 豊（科学警察研究所犯罪行動科学部長）

犯罪による被害を未然に防ぐことの意義は、今日、かつてないほど広く認識され、市民が主体となった自主防犯活動の気運も高まっている。今後、この気運が、系統的・継続的で実効のあがる取り組みへと結実するためには、地域の犯罪情勢やその背景要因を正しく認識すること、多様な人々の活動から派生しがちなムリやムラを減らすこと、取り組みの成果を点検し必要に応じて軌道修正することなどが課題となる。本報告では、その際、関係者が「考える材料」を共有することが重要であることを主張し、その方法や技術、警察や自治体などの公的機関が果たしうる役割などについて、内外の実証的犯罪研究の知見や、われわれ自身の調査研究の経験を踏まえて議論したい。

総司会

谷岡 一郎（大阪商業大学学長 日本犯罪社会学会理事・研究委員長）